

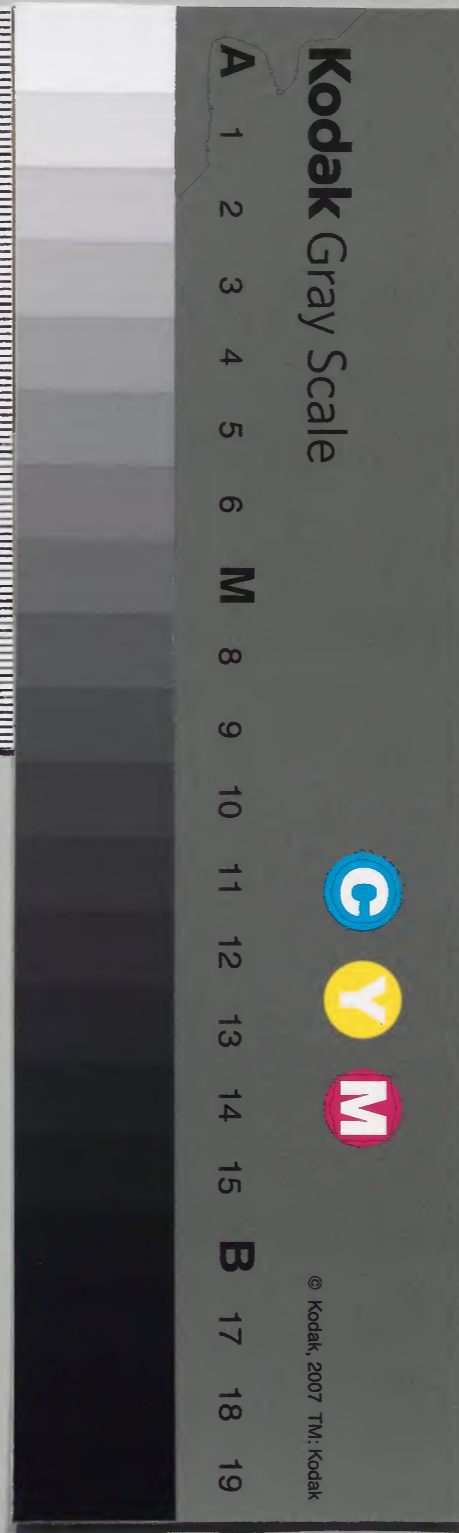
家系集

九十二

庫文閣内			
二〇	二五		和
函	五		
一	三	七	
五	六	四	書
架	冊	號	類

内閣文庫		
番號	和	25574
冊數	36	( 12 )
函號	201	433

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10





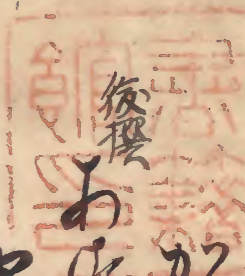
Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged, yellowed paper. The text is oriented vertically on the left page of the open book. The ink is dark, and the paper shows signs of wear and discoloration.



宗子集

淺草文府

和學講談所



後撰

中宮の壽合の時

暮

あはれなるあまの中山くまあしん後う傳らるる

同

物思ふふらむをわらわし

同

秋のよう物思ふ事は限らやと

恨れとふれと君ととていふはなをよそつれを

か

思ふも恋もといふ雲井の香はよふ人の字も知らん

暮

あすのしに世明なる春の日は来ぬや人をとていふ

暮

中宮の壽合よ

とよみなる松乃緑もまをれにふれはるるをわらわ

雪ぬえそ年のくれぬる時よとてはあふお舞をねはる

逆

袖ぬれてわれをよとて唐衣行をよしとてきこむをよえ

別後にもゆき唐衣をよれは海をよまそらほ

とてやあまをえはれとてあふ義思ふ人のてよとてね

暮

七月七日あつふとてよとてあふ

壽合



亭

心置かざるに増えたる人なり草し枯れと思ふ  
美人とて心置かざるは身を捨てて身を  
むすべし先れみらぬのくふしは言ふは終るを  
いそげらるゝ身とて身を捨てて身を捨てて  
かたしむすべし

笠とあふとみらるゝ志とまは洞のぬまぬれつて行  
おとらし伊勢かまゝのたはよ

思ふ行かざるあの子洞川わ洞まをるゆへある  
人々帯ふ心れまはるゝ福や身はまゝとまはるゝ  
まゝ宿れ庭の秋萩散はら後らん人やく身と思ふ  
あゝさういふれ山秋葉れわさるゝまゝゆゑらん  
白あられさるゝまゝ秋萩折てさうまゝやゆゑらん

いそあてさるれらるゝれむしのおもやんはさるゝ  
けしきつる人のうゝまゝま事あわらわよ

君と我いそれ山を秋れらるゝわねるおめとあわら  
わさるゝはお坂の志ねまゝかゝるゝまゝ急まゝらるゝ  
年月むしゝわらわら行と志らるゝ事おらるゝまゝ  
わらわらゝまゝあゝ行かざるまゝいれらるゝまゝ

入新初撰集

志らるゝのまゝはるゝまゝまゝらるゝ中くある人



Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page.



